



WWF

POSITION

SEPTEMBER

2014



Smart Fishing Initiative

WWF のポジション

中部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) 第 10 回北小委員会 (NC)
2014 年 9 月 1~4 日 福岡

はじめに

世界自然保護基金 (WWF) は、中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) 北小委員会 (NC) に対し、オブザーバーとして参加の機会をいただいたことに感謝の意を表します。

生態学的にも経済学的にも重要な水産資源の保全は、マグロ、カジキ類の科学的根拠に基づいた予防的な保安全管理手法が採用されるか否かに大きく左右されます。これは WCPFC が直面する最大の課題であり、対峙しなければならない責任です。

WWF は WCPFC の加盟国、参加地域、協力的非加盟国に対し、北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC) およびこれまでの WCPFC に関連する会合から提出された課題および勧告に、留意を払うことを求めます。

管理基準値

WWF は、引き続き WCPFC と関連機関が管理基準値 (Reference Point)、漁獲管理方策 (Harvest Control Rule) および漁獲戦略 (Harvest Strategies) を策定・実行することを支持します。WWF は、今回の北小委員会 (NC10) において、すべての資源に対する限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) および目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) を採用し、効果的な漁獲管理方策が実行されるよう求めます。

管理基準値は、資源管理の方針を決定する人々が、資源状態を判断する際に非常に有益なツールで、「資源が減少しているかどうか」、「漁獲圧が増大しすぎてはいないか」ということを判断することができます。2006 年以来、WCPFC では管理基準値に関する議論が行われており、北小委員

会でも適切な管理基準値を導入するよう勧告してきましたが、未だ正式/明確な管理基準値の導入されておりません。

WWFは、TRPを設定することの難しさや、まだ考慮すべきことがあることを十分認知しております。TRPにはさらなる社会経済的情報の考慮が求められますが、現在の生物学的・社会経済的条件の情報だけでも、予防的な暫定TRPを、現時点で実施することを妨げることにはなりません。したがってWWFは北小委員会に対し予防的な暫定TRPを推奨することを強く求めます。暫定TRPは、より洗練されたTRPが設定されるための有効なベンチマークとなると考えられます。さらに、ベンチマークとなる暫定TRPを設定するために必要な情報は、すでにそろっています。

また、LRP、TRPの実行に加え、WWFは事前に合意した管理行動、とりわけ漁獲管理方策を通じて北小委員会が漁業管理をサポートすることを推奨します。漁獲管理方策は、資源状態が管理基準値に達した際、管理行動をおこなうための契機となります。

漁獲管理方策は、中長期的なTRPを達成するために、管理主体が事前に合意した管理措置を実施することで、漁獲量がLRPに達するのを防ぐためのものです。単純な漁業管理方策は「もし～の場合、～を行う」といったかたちであり、例えば「もし、漁獲資源水準が目標水準を下回った場合、漁獲水準の20%削減を行う」といったものです。管理者は事前に、禁漁区の設定や漁具の制限など、どのような管理措置によって漁獲水準の20%減がなされるかについて合意しておくことが望まれます。

漁獲管理方策の一部として管理基準値を設定するということは、漁獲量が事前に設定した閾値(LRPもしくはTRPなど)に達した際に、最小限の議論で、管理者がその場で迅速かつ確実に決断できるよう、明解なマニュアルを定めることです。加えて漁獲管理方策は、確固とした科学に基づいた明確な漁業管理計画を策定するための基礎となります。

WWFは、北小委員会が、対象とする全ての種および資源についてLRPとTRPを採用するよう働きかけることを強く要望します。現存の科学は、明確で予防的な生物学に基づいたLRPの採用をサポートしますし、WWFはこれまでの北小委員会の勧告を支持します。

WWFの北小委員会への要望:

- 北小委員会の管理の下、すべての資源について適切に管理するため、LRPとTRPの導入を最優先事項とすること
- なお、LRPは、予防的な観点で生物量に基づいたもの(できれば産卵親魚量に基づくもの)とすること
- 予防的な観点で、漁獲圧に基づいたLRPは、漁獲率をコントロールするための暫定的なものとして導入すること
- 北太平洋において持続可能な資源管理のため、太平洋クロマグロとビンナガには至急、明確なLRPとTRPを導入すること
- 2014年のWCPFCにおいて、議論を深めるためのベンチマークとして、暫定的なTRPを導入すること

北資源

太平洋クロマグロ

ISC および IATTC の資源評価レポートでは、太平洋クロマグロの資源は著しく減少していると報告されています。また ISC は、資源は乱獲状態であり、すでに初期資源（漁業が開始される以前の推定資源量）の 96% が失われてしまったと報告しています。

これは、資源の生物学的健全性を保全する上で、中西部太平洋と東部太平洋で履行されてきた管理措置が不適切であったことを明示しております。

WWF は、生態/社会/経済的に重要な漁業資源の再生を見据えた上で、依然として強い懸念を持っております。漁獲されている魚の 90% 以上が、未だ子供を産めない未成魚です。また、子供を産むことができる成魚は、すでに著しく減少しており、資源が回復するか否かは、数少ない親魚による再生産に頼るほかないのです。

もし WCPFC が効果的な管理措置の採択に失敗してしまった場合、太平洋クロマグロの資源が崩壊する可能性は十分にあります。そうなった場合、現在よりも厳しい管理措置（禁漁期や禁漁区の設定など）をとらざるを得ないでしょう。

北小委員会は、利用可能な最善の科学的情報に基づき、至急、太平洋クロマグロへの漁獲圧を減少させるよう勧告すべきです。特に未成魚への漁獲圧減少は、加入（ふ化後、新たに漁獲対象となること）が崩壊するリスクを減少させ、産卵親魚資源の回復を可能とします。もし、効果的な管理措置が採択されなかった場合、北小委員会は、このような枯渇資源に対する漁業を禁止することを考慮すべきでしょう。

WWF の北小委員会への要望

- 太平洋クロマグロの長期的な資源回復計画、限界／目標管理基準値およびに漁獲管理方策を採用するよう働きかけること。これらは、明確かつ事前に合意されている必要があり、採用には資源状態を表す指標（管理基準値に基づいて算出されたもの）の変化に応じて、管理行動で規定された一連の行動を行う義務が伴います。
- 太平洋クロマグロの未成魚漁獲量を、2002-04 年平均から 50% 削減するよう働きかけること
- 太平洋クロマグロの成魚漁獲量を、2002-04 年平均を超過しないよう制限すること
- 太平洋クロマグロにおいて漁獲証明制度を導入し、漁獲活動のモニタリングと管理強化、トレーサビリティを確立すること
- 明確かつ科学に基づいた管理措置が完全に履行されない場合は、太平洋クロマグロの禁漁を勧告すること

北太平洋ビンナガ

ISC レポートでは、ビンナガ資源は今まで過剰漁獲の状態でないとは報告されています。しかしながら、北太平洋のビンナガ漁業は経済学的に非常に重要であることが認識されています。

WWF の北小委員会への要望:

- 北太平洋ビンナガの科学に基づく管理基準値と漁獲管理方策の採用を提唱することを強く求めます。
- 北小委員会が北太平洋のビンナガに対する漁獲死亡率が、現在の水準を上回ることはないこと、そして CMMs(参加加盟国、地域、協力的非加盟国)が、北太平洋ビンナガに対する船団漁業による漁獲死亡率が現在の水準より増加しないことを確実にするための必要な措置を求めます。

北太平洋ヨシキリザメ

科学委員会において、北太平洋のヨシキリザメ資源については、おそらく過剰漁獲が起こっており、また資源が枯渇状態にもないと示されたこと、またその一方で、この資源の今後の持続可能性及び漁獲によるヨシキリザメの現時点の死亡の程度に関連する不確実性を考慮し、

WWF は、北小委員会に対し、以下のことを勧告します。

- ヨシキリザメを標的とするすべての漁業に対し、WCPFC 第 12 回年次会合までに、強固な漁獲量上限を含んだ漁業管理計画を委員会への提出を求めるよう勧告すること
- 北太平洋のヨシキリザメ資源の適切な LRP 及び TRP を採択するように WCPFC を奨励すること
- 以下の取り組みを含む、予防的な緩和措置とともに、中西部太平洋のヨシキリザメ資源の追加的な分析及び研究を是認及び奨励すること
 - 「マグロ類地域漁業管理機関における混獲種に対する最良な保安全管理措置 (CMMs)」において示されたものと一致する最良の混獲対策を義務付けること
 - オブザーバープログラムやその他の手段により収集されたデータを元に、ヨシキリザメのすべての捕獲数・放流数(生きているか死んでいるか、放流時の状態も含む)を推計し、WCPFC に報告するよう求めること
- ヨシキリザメの漁業による死亡率を予防的な程度まで制限することで、持続可能なレベルに資源が維持されていることに高い確信を持てるようにすること

地域監視プログラム (ROP: Regional Observer Program)

適切な監視プログラムによる情報収集は、適切な漁業管理のために非常に重要なことです。オブザーバーから得られたデータは、すべての漁業研究(資源評価、非漁獲対象種への影響など)において、科学者が用いるデータの中心的な役割を果たします。また、オブザーバーは、中西部太平洋の保安全管理措置の実施・モニタリングにおいて、必要不可欠な役割を果たします。したがって、オブ

ザーバーのカバー率を上げることは、地域監視プログラム(ROP)強化のための最優先事項であり、ROP強化のために関連機関のサポートは必須です。

WCPFCは、適切な指導を通じて、ROPのもとで執行される国別監視プログラムが、人的・経済的に完全にサポートされ、十分な実施管理体制のもと確実に運営されるようにしなければなりません。北小委員会は、適切な管理という視点で管理プログラムの費用対効果分析だけでなく、CCMsが国レベルでの監視プログラムを適切に執行、管理できるよう別の資金提供モデルについても検討し提示すべきです。様々な場で、国別監視プログラムがROPの標準となるよう、最低基準についてコストが全てカバーされるよう働きかける必要があります。これには事前に合意された基準による年次評価が含まれます。

WWFは、データの正確性の観点から、乗船しているオブザーバーの独立性についても大きな懸念を抱いています。オブザーバーの独立性と安全性の確保は、データの正確性のためには、もっとも重要です。そのため、WWFは、利害対立をさけるためにも、オブザーバー積立モデルを推奨します。第三者決済システムを設立することによって、経済的な利害対立を生むような、船長・船主からオブザーバーへの直接の給与の支払いを防ぐことができます。WWFは、北小委員会が、オブザーバー提供者が即座にかつ安全にオブザーバーに給与を支払うことができ、オブザーバーの確実な独立性を保つための、資金提供モデルについて最新の研究の実施をサポートするよう提案します。

WWFは、電子モニタリングシステム(EM)が、中西部太平洋すべてに採用されることを支持します。世界中の他漁業において、様々なレベル、限られた環境で、EMによってデータの測定・収集に成功しています。EMの使用については、技術とプログラムが設計通り確実に機能するよう、徹底的な分析、広範囲なテスト、慎重なモニタリングが必要です。しかし、WWFはEMの導入が、WCPFCの保全地域内におけるオブザーバーのカバー率の上昇やコスト削減をもたらす重要な役割を持つとはいえ、カメラやセンサー、コンピューターによる分析だけですべての監視を行うことは難しいということ認識しています。また、EM導入による検証プロセスが確立されるよう、北小委員会が働きかけることWWFは求めます。

北小委員会は、ROPに関して、以下を勧告すべきです。

- 拘束力と一貫性のある、強固なROP基準(スタンダード)の更なる実施
- さまざまな資金調達モデルの分析を含めた、適切な管理という観点での監視プログラムの費用対効果分析の展開
- 以下の点を考慮し、ROPの最新データ問題に取り組むためのデータ収集委員会(DDC)の再構築とその検討
 - すべての監視報告提出のための、海鳥、ウミガメ、サメなどの種ごとの詳細な記入を含める非対称種のデータフィールドの改訂
 - 監視範囲全体の一つの構成要素としてのEMの検討と評価を通じて実施することを含めて、WCPFCの保全地域で操業する漁獲ごとの、空間的および時間的に代表的な(典型的な)監視範囲を対象とする、より包括的な分析と設計計画の開発と実施

Our Smart Fishing Vision and Goals:

Vision: The world's oceans are healthy, well-managed and full of life, providing valuable resources for the welfare of humanity.

2020 Goals: The responsible management and trade of four key fishery populations results in recovering and resilient marine eco-systems, improved livelihoods for coastal communities and strengthened food security for the Planet.



Why we are here

To stop the degradation of the planet's natural environment and to build a future in which humans live in harmony with nature.

panda.org

For more information

Alfred "Bubba" Cook
WCP Tuna Programme Manager
acook@wwf.panda.org
Tel: +6799035008

WWF Smart Fishing Initiative
Moенckebergstr. 27
20095 Hamburg

Tel. +49 40 530 200 310

www.panda.org/smartfishing

© 1986 Panda Symbol WWF - World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund)
® "WWF" is a WWF Registered Trademark.